



2025 年 4 月 25 日

第 **228** 号

国立研究開発法人 建築研究所国際地震工学センター

〒 305-0802 茨城県つくば市立原 1 TEL 029-879-0678 FAX 029-864-6777

今月の話題

ミャンマー地震により被害に合われた皆様にお見舞い申し上げます

2024 年度課題別研修「グローバル地震観測コース」閉講

「グローバル地震観測コース」閉講式代表挨拶

元研修生との意見交換会(IISEE オンライン同窓会)より 《連載第 2 回》

着任挨拶

(短報)桜と共に記念撮影

ミャンマー地震により被害に合われた皆様にお見舞い申し上げます

国際地震工学センター

ミャンマー中部で発生した大地震による被害の報に接し、私たちは大変心を痛めております。

亡くなられた方々に心よりお悔やみを申し上げるとともに、被災されたみなさまにお見舞いを申し上げます。

また、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

国際地震工学研修は1960年に開始され、ミャンマーからは41名、タイからは46名の研修生が修了されています。

この困難な時期に彼らやご家族が無事であることを、私たちは祈っています。

IISEEでは、ミャンマー地震(M7.7)に関する特設ページを公開いたしました。

下記サイトをご覧ください。

<https://iisee.kenken.go.jp/en/database/quakes/20250328.html>

2024 年度課題別研修「グローバル地震観測コース」閉講

国際地震工学センター

1月8日に開講したグローバル地震観測コースは、3月3日に閉講しました。

閉講式は、JICA筑波にて挙行され、エルサルバドル、カザフスタン、ネパール、セントビンセント及びグレナディーン諸島の4カ国から参加した5名全ての研修生が、JICA筑波の高橋所長と建築研究所の澤地理事長から修了証書を受け取りました。

研修生は、約2ヶ月間の間に、グローバル地震観測に関する知識や高度な地震解析技術を習得するため、積極的に取り組んできました。

また、広島の実験ドームや平和記念資料館を訪問して、被爆の実相に触れる機会も得られました。

研修生には、日本で学んだ知識や経験を母国で沢山の方に紹介して頂けると嬉しいです。

研修生のこれからのご活躍に期待します。



JICA 筑波センター
高橋 亮 所長



建築研究所
澤地 孝男 理事長



外務省 軍縮不拡散・科学部 軍備管理軍縮課
佐藤 碧 主査





「グローバル地震観測コース」閉講式代表挨拶

ハンリー・レアンカ・ローネル・テシャニ（セントビンセント及びグレナディーン諸島）



独立行政法人国際協力機構筑波センター 高橋亮所長、
外務省 軍縮不拡散・科学部 軍備管理軍縮課 佐藤碧 主査、
建築研究所 澤地孝男理事長、
先生方、スタッフの皆様、グローバルコース研修員の皆さん、
おはようございます。

おはようございます、そしてお別れの時です。

第29回グローバル地震観測研修も終了を迎え、セントビンセント及びグレナディーン諸島からの初の参加者として、このような素晴らしい皆さまの前で挨拶できることを大変光栄に思います。1995年にIISEEがさまざまな機関と協力してこの研修を開始して以来、包括的核実験禁止条約(CTBT)の検証体制を支えるために、80カ国から302名の参加者が認定されてきました。

今年の参加者を代表して、この有益な研修の企画・実施に貢献し、私たちに知識と技術を授けてくださった外務省、国際協力機構、建築研究所、国際地震工学センター、気象庁、包括的核実験禁止条約機関、防災科学技術研究所、そして関係大学の皆様に心より感謝申し上げます。

被爆の痛みを抱え続けている唯一の国として、日本は様々な機関の協力のもと、CTBTを支援することで、平和な世界環境の維持に多大な努力をしてきました。核兵器の開発には核爆発実験が不可欠であるため、日本政府は、自然地震と核実験を区別する方法を世界中の地震学者に教えることを目的とした「グローバル地震観測研修」を開始しました。

この2ヶ月間の講義と演習は非常にハードなものでした。しかし、地震学、CTBTOの検証システム、そして核実験と自然地震を区別するためのいくつかの技術について、豊富な知識を提供してくださった講師の方々に大変感謝しています。講師の方々の専門知識、献身、そして忍耐により、充実した学習環境が生まれ、私たちの視野を広げる刺激的な会話に繋がりました。

関西方面への研修旅行では、破壊的な地震の負の影響や核爆発、そして地震観測機器の歴史について学ぶことができました。北淡震災記念公園と人と防災未来センターへの訪問により、被災地の保存が人々の意識を高めること、また、市民や外国人が大規模地震の被害をバーチャルリアリティで体験できることの重要性を知りました。広島平和記念資料館への訪問では、核爆発に対する私たちの視点や想定に大きな変化をもたらしました。被爆者の写真、彼らの最後の瞬間の記録として残された遺品、家族から伝えられた最後の言葉などを見て、当事者ではない我々からは、お悔やみを申し上げることしかできませんでした。被爆者の小倉桂子さんの講演は、79年前の恐ろしい被爆の日の様子を恐ろしいほどリアルに描き、時間がどれだけ経とうとも消えることのないトラウマの訴えに、私たちの胸も熱くなりました。

林田先生と佐久間さんには特に感謝の意を表したいと思います。佐久間さんには研修中、多大なサポートをしていただきました。佐久間さんは、日本の歴史、伝統、文化、そしてさまざまなお菓子について惜しみなく教えてくださいました。その温かい心遣い、そして私たちが快適に過ごせるようにと配慮してくださったことに、参加者全員が感謝しています。こうしたちょっとしたことが、日本をより楽しむ手助けとなりました。林田先生からは、この研修中、たゆまぬご指導とご支援をいただき、有意義で魅力的な学習体験をすることができました。誠にありがとうございました。先生はどんな質問にも回答してくださり、常に明確な答えを得ることができました。

また、残念ながらお会いできなかった坂本先生のご逝去に対し、心より哀悼の意を表します。ご冥福をお祈りいたします。

皆さん、JICA筑波センター、BRI、IISEEは単なる教育機関以上の役割を果たしてきたと自信を持って言えます。この2か月間、私たちはさまざまなプログラムの参加者だけでなく、知識豊富な先生方とも知り合うことができました。このプログラムは、地震学者としての能力を磨くのに重要な役割を果たしており、今、私たちはそれぞれの国での日々の業務に、ここで学んだ概念やスキルを応用できるようになっています。さらに、この研修は日本と参加国、すなわちエルサルバドル、カザフスタン、ネパール、セントビンセント及びグレナディーン諸島との絆を深めることにもなりました。ありがとうございました。

元研修生との意見交換会(IISEE オンライン同窓会)より 《連載第2回》

昨年12月6日にGRIPS・建研共催シンポジウムとともに開催された元研修生との意見交換会(IISEEオンライン同窓会)におけるスピーチを連載により掲載します。

ソス・マルガリャン氏によるスピーチ、IISEE研修修了生、2000-2001(Sコース)、アルメニア国立地震防災研究所ディレクター

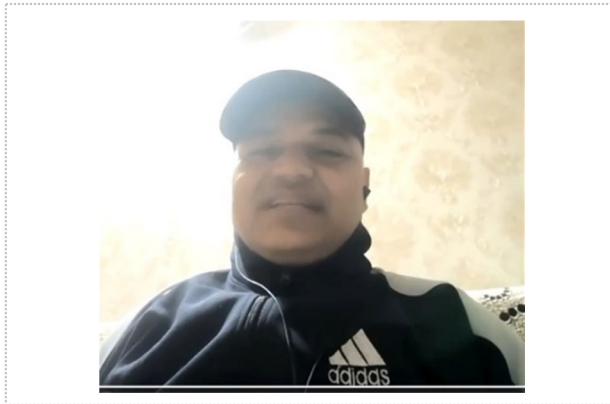


皆さん、こんにちは。皆さんにお会いできてとても嬉しいです。講師の方々、同僚の皆さんにもお会いできて本当に嬉しいです。私はアルメニア出身のソス・マルガリャンです。お話できる時間が3～4分しかないので、簡単に自己紹介をさせていただきます。私は2000年から2001年にかけてJICAの地震学コースに参加しました。その後アルメニアに戻り、2005年から2007年にかけて、再び日本に滞在し、IISEEでJSPSのフェローとして研究を行いました。その後アルメニアに戻り、現在は、JICA、CTBTO、国際原子力機関(IAEA)など、国際的な協力関係が非常に深い、アルメニア国立地震防災研究所の所長を務めています。

現在、私たちの任務は、一般的な地震防災における地震災害評価であり、IISEEとの協力関係は継続しています。現在、短期地震工学コースの受講生がいます。

このような機会をいただき、大変感謝しております。また、繰り返しになりますが、IISEEで学んだ知識は今でも非常に役立っています。ありがとうございました。

ムクンダ・バタライ氏によるスピーチ、IISEE研修修了生、2004-2005、2013-2014(Sコース)、鉱山地質局、シニアディビジョナルジオロジスト(企画、プログラム、情報部門長)



皆さん、こんにちは。はじめまして。

ネパール出身のムクンダ・バタライと申します。私は、政策研究大学院大学(GRIPS)との連携により、本コースが防災政策の修士課程となる直前の2004-2005年に実施された1年間の地震学コースに参加しました。また、2013-2014年のコースにもGRIPSとの連携により、IISEEの修士課程の学生として参加しました。その後、IISEEの短期コースや個別コースに何度か参加しました。

現在、私たちは若い同僚たちに、IISEEのグローバル地震観測コースや通年研修に参加するよう勧めています。IISEEで学んだコースは、ネパールにおける災害軽減活動と政府にとって大きな貢献となりました。

ありがとうございます。

着任挨拶

国際地震工学センター 管理室長 飯竹理広

国土交通省不動産・建設経済局地理空間情報課から国際地震工学センター管理室長に着任いたしました飯竹理広と申します。

これまでの経験も生かし、国地のスタッフと協力して、研修講師の講義や研修生の取り組みを支えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。



(短報)桜と共に記念撮影

国際地震工学センター

国際地震工学センター前の桜が満開になりました。

4月1日付けで着任した福山 洋 理事長と長谷川 洋 理事を迎えて研修生と国地スタッフで記念撮影をしました。





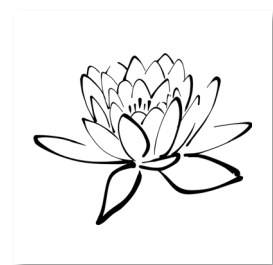
連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEE と卒業生の架け橋を目指しています。
ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国でのご活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお誘い下さい。

iiseenews@kenken.go.jp

<https://iisee.kenken.go.jp/jp/>



バックナンバーは下記をご覧ください。

<https://iisee.kenken.go.jp/jp/newsletter/>

研修関係情報

アブストラクト・データベース(修士論文概要)

E ラーニング(システム)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Bulletin データベース (English)

ダウンロード

地震防災技術情報ネット

データベース

BRI 強震観測網

地震情報 (English)

宇津カタログ

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

東北地方太平洋沖地震

組積造構造実験データベース